

常陸大宮市有機農業シンポジウム

有機農業シンポジウムには会場満席となる約200名が来場しました。各分野で活躍をされている登壇者の意見を抜粋してご紹介します。また、市ホームページでは、登壇者の食や農業に対する熱い思いや、技術的な話を詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。



▲市 HP「有機農業シンポジウム」開催レポート

ノンフィクション作家

島村 菜津さん

常陸大宮市とJA常陸が協力し合っ
て有機農業を推進している様子を間近に見ていると、日本の農業が変わるのではないかと強く感じています。



NPO 法人
民間稲作研究所
館野 廣幸 理事長

栽培するなかで自然の動きをできるだけ妨害しないことが一番大事だと思っています。流通では、積極的に農協と話をして自分たちの生活を守るための価格も提示してもらいたいと思います。



いばらき有機農業
技術研究会
松岡 尚孝 会長

有機農業で大事なことは、いかに環境を豊かにすることです。また、栽培技術者という立場でJAなどからも講演会などの依頼があり、確実に有機農業が広がってきていると感じます。



農林水産省
秋葉 一彦
大臣官房審議官

省内では十数年前から持続的な農業について議論してまいりました。有機農業は、農業技術の観点でも科学的で未来があり、無駄がない農業です。国としても有機農業をしっかり支援していきたいです。



常陸農業協同組合
秋山 豊
代表理事組合長

地域で安全安心な食料をつくり、地域の人々に食べてもらうことで、継続できる地域農業を作りたいと考えており、市と二人三脚で有機という付加価値を付けた農業への挑戦を始めました。



常陸大宮市
鈴木 定幸 市長

今後、オーガニック学校給食は必ず広がっていくと確信しています。また、市内で生産された有機農産物が近隣市町村でも利用されるような取組を進めると同時に、保護者の食育の意識も高めたいです。



茨城県内自治体初！ オーガニックビレッジ宣言 を行いました

令和5年11月5日に開催した「常陸大宮市有機農業シンポジウム」で、鈴木市長による「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。この宣言は茨城県内の自治体では初めてとなるものです。今後は、「常陸大宮市有機農業実施計画書」(令和6～10年度)に基づき、有機農業の推進を図っていきます。

「オーガニックビレッジ」とは？

有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず消費者、地域内外の住民とともに地域ぐるみの取組を進める市町村のことをいいます。

オーガニックビレッジ宣言

「子どもたちに最高の給食を届けたい」この思いから、令和3年度に常陸大宮市有機農業推進計画を策定し、今現在、「茨城県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本計画」における「特定区域」に設定された有機農業モデル団地を中心に、市内での有機農産物の生産を加速化させています。

食は、身体と心をつくる生命の源であります。安全で安心な食を提供していくことは私たちの世代に課せられた重要な使命であることに加え、今や世界の趨勢となったオーガニックへの大きな流れは、人々の健康と持続可能な農業の振興に必ずや貢献していくものと確信しております。

常陸大宮市はオーガニック学校給食実現をきっかけとして、生産者と消費者それぞれの理解と連携を深めつつ、その先にある有機農産物の生産から消費までを地域全体で推進する取り組みを全力で展開することを誓い、ここにオーガニックビレッジ宣言をいたします。

令和5年11月5日 常陸大宮市長

鈴木 定幸



市内給食で農薬・化学肥料不使用の米を初提供

11月6日、市内の小中学校で初めて農薬・化学肥料不使用の米が給食で提供されました。今回提供された米は、広報常陸大宮9月号の特集でインタビューした(株)JA常陸アグリサポートと藤田正美さんが丹精込めて育てたものです。令和6年度の新米からは「有機JAS認証」を取得する予定です。



11月6日に市内小中学校に提供された給食では、ご飯以外にも有機栽培されたコマツナ、ニンジンも提供されました。2 大賀小学校にて、市長、教育長、常陸農業協同組合長が子供たちと一緒に農薬・化学肥料不使用の米を味わいました。3 子供たちは「つやつやしている」「甘味があっておいしい」と美味しそうに頬張っていました。

